

平成27年度 学校自己評価システムシート (県立浦和第一女子高等学校・定時制)

目指す学校像	一人一人が大切にされ、落ち着いて学べる教育を推進し、社会ではばたく力を育てる。
--------	-----------------------------------------

重点目標	1 一人一人の学力に応じた丁寧な指導を通して基礎学力の充実を図る。 2 地域社会・保護者等と連携した教育活動を推進する。 3 生徒の実態に即したきめ細かな指導を通して将来への展望を拓かせる。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>学力の定着度に差が見られるが、学習に取り組む姿勢は前向きである。また、生徒・保護者へのアンケートから授業に対して肯定的な評価を受けている。</p> <p>課題として学習意欲を更に向上させることと授業で一人一人の能力に応じた指導ができるように工夫・改善を行い基礎学力の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 欠点保有者を減少させる。 生徒が自ら学習に取り組めるように授業環境を整える。 補習等を充実させて生徒の学習時間を確保する。 	<ol style="list-style-type: none"> 一人一人の能力を把握し、授業では、その能力に応じた指導を丁寧に行うとともに少人数授業の利点を活かす。 授業規律の確保について共通認識を図り、生徒が授業に集中できる環境を整える。 学習サポート員等が行う補習で基礎学力の定着を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 各学期の成績会議で欠点保有者を減少させる。また、欠点者への指導計画を策定する。 教員には「授業規律の確保ができたか」生徒には、「集中できる授業環境であったか」アンケートを行う。 学習サポート員が行う補習に多くの生徒を参加させ、基礎学力を向上させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1・2学期の欠点保有者を昨年より4%減少させることが出来た。 年間を通して授業規律確保の共通認識を教員側が持って授業に臨み、生徒へのアンケートでも概ね満足しているという結果になった。 学習サポートの参加者を11%増やすことが出来た。個別対応で指導しているので、基礎学力の向上に役立っている。 	A A B	<ul style="list-style-type: none"> 欠点者に対する個別指導を行ってきたが、次年度は更に充実させ、欠点保有者の減少に努める。 全ての生徒が満足する授業を目指して、生徒による授業アンケートを参考にして、授業改善についての研修会を実施する。 学習方法がわからない生徒がいるので、個別に示してあげ、学習意欲の向上を図る。
2	<p>地域が主催する行事に生徒が参加をして交流を深めている。保護者との連携は、PTA役員の方々と協力して進めている。</p> <p>課題としては、教育活動全般で保護者の方々の関わりを深めることと地域貢献を促進することである。また、本校の教育活動について情報発信を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会と交流を深める。 学校行事等での来校者を増加させる。 本校の教育活動の内容や特長を理解してもらおう。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域社会が主催する行事へ積極的に参加をする。 メールや郵送を活用して、確実に行事の内容が伝わるようにする。 ホームページの更新を随時行い本校の教育活動をアピールする。また、中学校訪問で本校の特長を伝える。 	<ol style="list-style-type: none"> 年間を通じて地域との交流が何回できたか。また、地域社会の満足を得ているか。 学校行事などで来校者数を増加させるとともに満足度も高める ホームページの閲覧者を増加させる。また、中学校訪問で特長を伝えられたか確認する。 	<ol style="list-style-type: none"> 昨年度末に、地域で行われた祭りの手伝いを行ったが今年度も参加する予定である。 今年度は、すべての行事で保護者に案内を出したので来校者を増加させることが出来た。 行事等で活動風景を小まめに撮影し、素早くホームページにアップできた。また、中学校訪問の資料を本校の特長がわかるように工夫した。 	B B A	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、アンテナを高くして地域活動を把握し参加していきたい。 次年度は、保護者が来校しやすい雰囲気を醸成することが課題である。 ホームページは引き続き素早く更新に努め、その他の方法でも本校の特長を外部にアピールする手立てを考える。
3	<p>進路実現を目指した計画的な指導の結果、着実に社会性が身につく進路実績も向上している。また、場面での指導によりマナー向上や規範意識が醸成されてきている。</p> <p>課題は、進路変更に至ってしまう生徒が多いことである。また、学校外になると主体的に行動できない生徒がいるので成長させることである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路変更した生徒が減少したか。 計画的・系統的な進路指導が実践できたか。 生徒の社会性を養い社会ではばたく力を育成できたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の様子を日頃から教職員で注意を払い、変化がある場合には早めに家庭に連携し対応を図る。 進路指導部が策定した進路指導方針に沿って一人一人の進路希望を把握し企業訪問を行う。 生徒の成功体験を教員も共有・賞賛し、生徒に自信を持たせる。それらの積み重ねから社会で主体的に活動できる生徒を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の様子が変化した初期の段階での指導、家庭との連携により進級・卒業する生徒を増加させる。 各学年で進路意識を向上させる。また、企業との連携を深め進路実績を向上させる。 校内での成功体験を教員が生徒に言葉で伝える。また、多くの生徒がアルバイトに従事できるように指導する。 	<ol style="list-style-type: none"> 昨年度の同時期と同じ人数の退学者である。学年末まで一人の退学者を出さないように努力する。 今年度から学年別で進路指導を行った。アンケート結果からも進路に対する意識の向上が見られ良い方向へシフトすることが出来た。4年生は、早めに準備をしたため、余裕を持って取り組む事ができた。 成功体験を積み重ね自分に自信を持たせると共に、社会性を養うためアルバイトを推奨した結果、多くの生徒が従事している。 	A A A	<ul style="list-style-type: none"> 欠席が増加して退学に結びつくケースが多いので、次年度は、今年度以上に家庭との連携を密にし、早めに対応する。 今年度軌道に乗った学年別の進路指導を次年度は、個別に対応できる体制を整える。 次年度もアルバイトなど、学校外の活動を推奨し、社会性を養う。

学校関係者評価
実施日 平成28年 2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 学校側が、生徒の進級・卒業のために欠点者を減少させる取り組みを実践しているが次年度も更に進めて欲しい。 基礎学力を定着させるために様々な取り組みを行っている。生徒のアンケートからも学ぶ意欲があることが伺えるので着実に伸ばしてあげて欲しい。 学習サポートは、非常に良い取り組みなので参加者を募るだけでなく、学校側の工夫で多くの生徒が参加出来る体制を構築して欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> 祭りへの参加が生徒の社会性育成に役立っていると学校側が評価してくれていることは有り難い。今年度もぜひ手伝いをお願いしたい。 生徒を健全に成長させるには、保護者と連携し共通認識をもって育てることが大切である。そういった意味からも日頃の教育活動を保護者に見てもらう事は、とても重要である。
<ul style="list-style-type: none"> 「社会にはばたく力を育てる」という考えはすごく良い。高校時代が社会との接点になる生徒がほとんどだと思うので、これからも、在学中に社会性を育成していただきたい。 途中で退学してしまう生徒が数名いるが、働きながら学ぶと言うことはそれだけ難しい。働きながら学ぶという経験が社会に出てから即戦力の人材となる。 将来をどう過ごすかということを根底において生徒を指導してもらいたい。